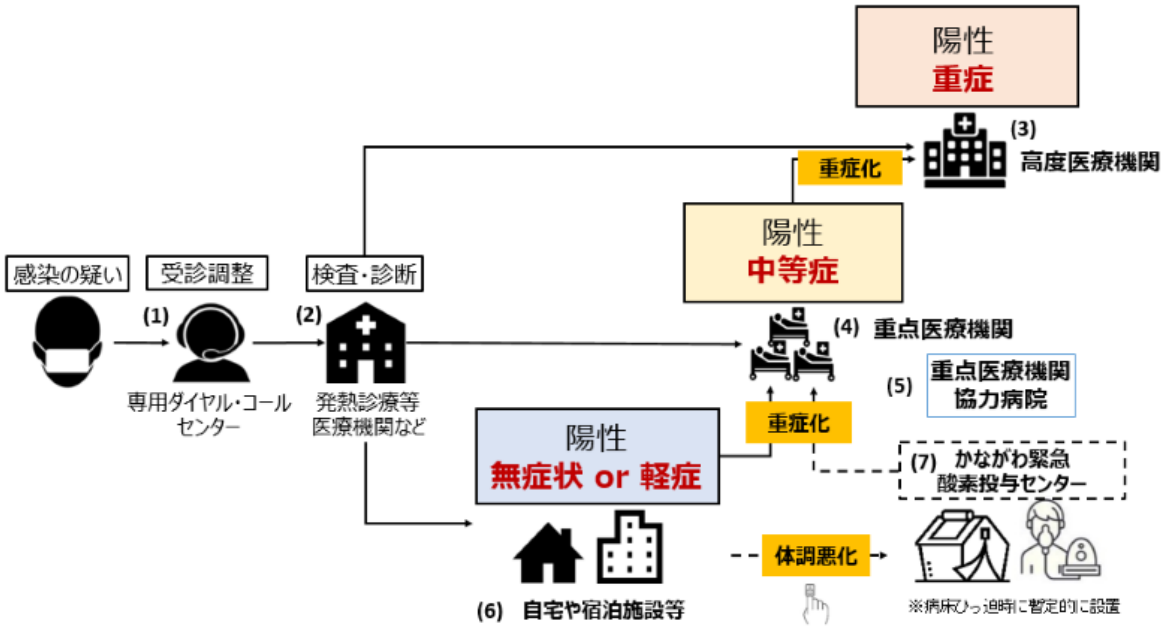
6　神奈川モデル概要

令和２年（2020年）１月の県内で国内初の新型コロナウイルス感染症患者の確認や、同年２月のダイヤモンド・プリンセス号への対応により、早い段階から神奈川県は新型コロナウイルス感染症に対して取り組んできた。そして、特にダイヤモンド・プリンセス号の患者対応等の経験を踏まえ、爆発的な患者急増による医療崩壊を防ぐための新たな医療提供体制「神奈川モデル」を令和２年（2020年）３月から構築し、新型コロナウイルス感染症患者の対応のための体制整備を進めてきた。

○　医療提供体制の神奈川モデル



（県ＨＰより）

(1) 専用ダイヤル・コールセンター

症状のある方、感染が不安な方への電話相談窓口。発熱診療等医療機関の案内など

(2) 発熱診療等医療機関など

発熱診療等医療機関などで診断・検査。また、地域の実情に応じて、医師会や病院協会などの医療関係団体と連携し、集合外来・集合検査場の設置。

(3) 高度医療機関

集中治療室(ICU)、高度治療室(HCU)を有し、重症患者の入院管理を行う医療機関。

(4) 重点医療機関

点滴や酸素投与が必要な中等症患者を病棟単位で重点的に受け入れる医療機関。

(5) 重点医療機関協力病院

重点医療機関を支援するため、PCR検査結果が出るまでの疑似症患者の受け入れや、陽性確定後も合併症などにより継続治療が必要な患者の受け入れ、コロナ陰性化後も引き続き入院が必要な患者の転院受け入れ、中和抗体療法を行う短期入院患者の受け入れなどの役割を担う医療機関。

(6) 自宅・宿泊療養施設等

無症状・軽症の方の療養は、宿泊療養施設や自宅で実施。

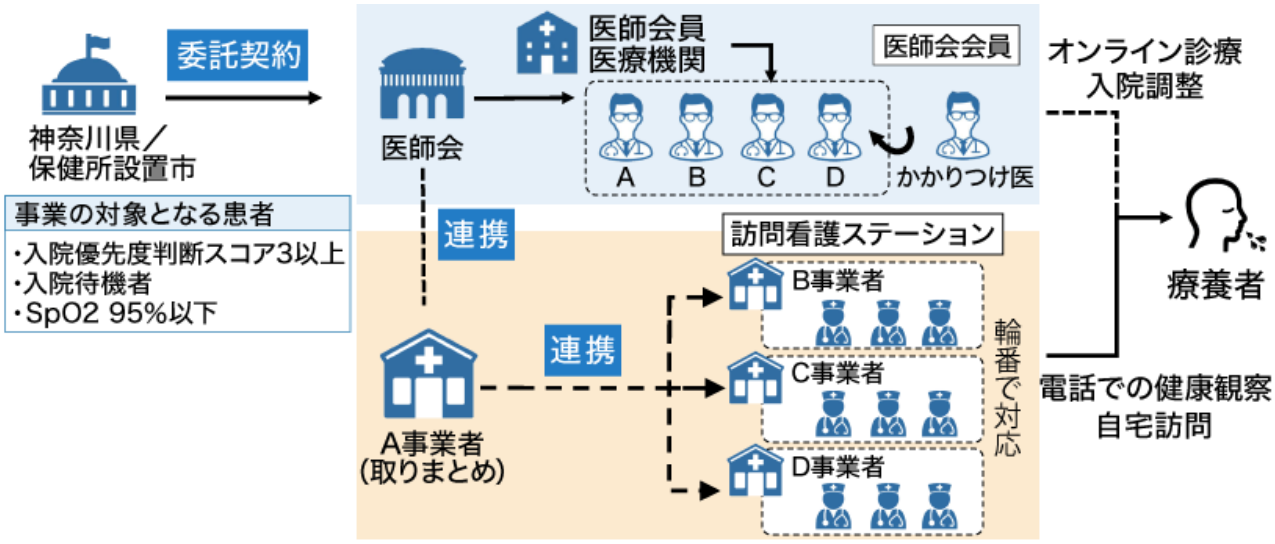
(7) かながわ緊急酸素投与センター

医師により入院が必要と判断された方の搬送先が確定するまでの間、酸素投与の応急措置を行う緊急的な施設。病床逼迫時に暫定的に設置。

○ 地域療養の神奈川モデル

自宅療養者のうち悪化リスクのある方、悪化が疑われる方について、地域の看護師が電話による健康観察を行うほか、必要に応じて自宅訪問して対面により症状を確認する。また、24時間電話相談窓口を運営する。

参画する地域医師会の医師は、看護師からの相談を受け、オンライン診療を行い、入院が必要と判断した場合には入院調整を行うなど、「地域医療の視点」から効果的に療養サポートを行う。



（県ＨＰより）